

充実した生徒指導研修会

講義A 生徒指導主事の役割について

《小学校部会》 講師：指導主事 石亀 健

平成25年5月31日(金)

於 前沢総合支所 前沢ふれあいセンター

生徒指導の3つの機能

- 1 児童生徒に自己決定の場を与えること。
- 2 児童生徒に自己存在感を与えること。
- 3 児童生徒との共感的人間関係を育成すること。

授業において生徒指導の機能を生かすことが重要です。また、生徒指導主事は、問題を抱えている先生の一番の味方になって、一緒に解決方法を考えてあげることが大切です。

《中学校部会》 講師：指導主事 佐々木 晋

消極的な生徒指導と積極的な生徒指導

- 1 消極的な生徒指導…非行対策に代表されるように、児童の問題行動に対する直接的な指導や適応上の問題、心理面の問題などをもつ生徒に対する指導。
- 2 積極的な生徒指導…全ての児童生徒それぞれの、人格のより良い発達を目指すとともに、学校生活が個人にとっても有意義で充実したものになることを目指した指導。

積極的な生徒指導で児童生徒の自律する力を育てることが大切です。

講義C さまざまないじめの事例対応について

講師：岩手大学教育学部 准教授 山本 奨

インシデント・プロセス法の主な効果

児童生徒への指導援助について、教師一人一人が個々に取り組んでいたものが、集団性を基盤に、学校という一つの組織として取り組めるようになる。

インシデント・プロセス法(体験学習型の事例研究法)で指導・援助策を検討することで参加者の問題解決能力および実践的指導力の向上を図ることができます。

講義D よりよい人間関係づくりのための学級づくりについて

《小学校部会》 講師：主任指導主事 菅原 正樹

学級経営・学習指導の基盤

- 1 めざす子ども像をもつ。
- 2 信頼関係を築く。
- 3 児童理解に努める。

児童のよいところを見つけてほめ、よいところを見つけて知らせてくれた児童をよりほめる。そうすることで望ましい行動をとる児童が自然に増えていきます。

講義B いじめの未然防止に向けた取組について

講師：岩手大学教育学部 准教授 山本 奨

アンケートのとらえ方

- 1 アンケートをコミュニケーションツールだと考える。
- 2 悩みは話しにくいもの。
- 3 子どもはふつう「いじめ」のことは書かない。

早期発見、早期対応のために、アンケートの質的向上を図ることが大切です。

《中学校部会》 講師：指導主事 内川 千亜希

「絆づくり」と「居場所づくり」の違い

- 1 「絆づくり」とは、主体的に取り組む共同的な活動を通して、児童生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくこと。
- 2 「居場所づくり」とは、児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じる場所づくりを提供すること。

これからの生徒指導においては、「居場所づくり」にとどまることなく、「絆づくり」を進めていくことが重要です。

講義E 通常学級で指導が困難な児童生徒への支援について

講師：特別支援教育エリアコーディネーター

柿崎 明広

通常学級で指導が困難な児童生徒とは

先生が困っている⇒でも、一番困っているのは「本人」である。

障がい名ばかりに眼を向けるのではなく、得意なことやよいところを伸ばしていく方向に目を向けてほしいです。



- ・ 問題が起こったことを報告、相談する同僚の気持ちをまず受け止めることが第一歩なのだ分かった。
- ・ 保護者や被害者、加害者、そしてまわりの子どもたちの心理を様々な視点でとらえるきっかけをえることができた。